



CONTENTS

特集 1 特別寄稿 藤原次郎

朝来の風景の魅力 ~彩り豊かな朝来で暮らす~ ————— 1

特集 2 座談会

竹田城下町としてのまちづくり 竹田地域 ————— 3

シリーズ 甦「rehabilitate」Vol.2

~ 築250年の古民家改修 生野町黒川 ~ ————— 6

あさご・景観まちづくり掲示板 ————— 7

# あさご いろいろ

あさご景観まちづくり情報誌

Vol. 3



# 朝来の風景の魅力

## 〜彩り豊かな朝来で暮らす〜

### まとまりのある朝来の風景

朝来はまちと山が近く、川や水もまちに近いという印象があります。まちがコンパクトにまとまっていて、そのなかで歴史が積み重なって暮らしに幅を持たせているのですが、各家庭では近代的な生活が営まれており、その背景に美しい自然があるという特徴があります。

子供も大人もお互いに名前や家を知っていて、お互いの信頼関係の中で安心して暮らしているという地方ならではの安定感が朝来にはあります。

但馬地方にある朝来は雪国というイメージがありますが、夏はすこく暑かったり雨が多くじめつとした空気があったり、秋の彩りが鮮やかだったり、四季の変化にメリハリがあるのが特徴と言えます。

鬱蒼とした社叢林に囲まれた神社の苔生した境内などは、湿気を伴ったもののけのような怪しさがあり、子供心にも自然に対する恐れというか畏敬の念を覚えました。恐れがあるからこそ、自然に接する



山が近い朝来のまち

朝来市の美しい風景を記録した

『朝来スケッチ』の制作に携って頂いた

朝来市出身の映像作家、藤原次郎さんに

ふるさと朝来への思いなどを

寄稿して頂きました。

ときに加減すること、自然とのバランスを取ることを理解しながら育ってきたのではないかと思います。

### 文明の三叉路

和田山は、古くから交通の要衝として栄え、豊岡方面と京都方面と姫路方面にそれぞれ道路や鉄道が伸びており、三方向に広がるまちだというイメージがあつて、私はいつも、和田山は、文明の三叉路だと言っています。

和田山駅の近くに暮らしていたので、小さい頃からでっかい列車がゴーツという音を立てて行き交う姿を見続けてきました。昔はSLブームで多くのアマチュアカメラマンが押し寄せたり、観光バスやスキーバスなども多かったです。

都会に出て、自分のまちを紹介しても、誰も和田山や但馬を知りません。そのようななか、私は竹田城跡の写真を使ってふるさとを紹介してきました。また、地元で東河富士と呼ばれる室尾山の美しさも伝えるようにしてきました。



三叉路

### 映像作家 藤原次郎

1955年生まれ。朝来市和田山町出身。2001年〜テリーアワード「アメリカ」他受賞多数。2012年「朝来スケッチ」制作。2013年ワールド・メディアフェスティバル特別賞／写真集「田平線」denpei sen 発刊



景観の守られている朝来の街並



## 『朝来スケッチ』を制作して

朝来市全域を二年近くかけて取材してきましたが、竹田城跡や生野の鉱山遺産、高田や東河の古墳など、地域ごとに個性やメリハリがあつて面白かったです。

特に、生野は文化レベルが高く歴史にも深みや幅がありました。また、単純な観光都市とは違う不思議な魅力が秘められていると感じました。

昨年、系井小学校で『朝来スケッチ』を上映しましたが、子供たちにとっても感動しながら見てもらうことができ、映像を共有してくれていることに驚きました。

朝来にはいつまでも変わらない風景があり、それは本物の風景、正直な風景でもあります。これはいつまでも大切にしたいですね。

『朝来スケッチ』では、朝来の風景を理屈抜きで感じてもらうとノンナレーションとし、カメラワークもパンやズームを使わずにフィックスのみで、フレーム内の映像を感覚的に理解して頂けるように演出しました。



霧に浮かぶ竹田城跡

動きは少ないのですが、逆にそよぐ風や朝霧、漂っている空気のようなものを感じ取って頂ければと思っています。

日本は雨にも豊かな表情があつて風情があり、海外からとても日本的だと評価されていますが、朝来には日本の要素みたくないものがいっぱい詰まっています。

## 朝来の風景の魅力

朝来では、歴史的なものや昔の嘗みの名残、それに基づいた人々の暮らしが営まれており、時代の変化に伴って、集落の形態が少しずつ変化しながら今に続いています。

都会は無機質で、歴史的なものや自然、人々のつながりも薄いような感じがしますが、朝来ではまだたくさん残っています。風景はアイデンティティーを伝える一つの道具ですので、大切にしたいです。

景観としてあるべき姿をイメージし、現在の生活に合せながら、また合意形成を図りながら整えていくことが大切です。いいものを愛でるたしなみを持つて暮らしていくことができたいと思います。



夜久野高原

空き家や耕作放棄地の増加は全国的な課題ですが、これまでの町並みや景観の地層とでもいうべき積み重なりを分析しながら朝来の魅力を発信して、市外の人たちや若い方々に関心を持ってもらう、知恵のある人にも集まってもらうことで解消していく必要があります。

## 景観に対する意識に磨きを

美しい風景は、人が関わらなるとなかなか維持することができません。

また、家を建てるにしても、家の外観が周辺の風景に合うのかしっかりと自分で考えて選んでいく必要が



朝来のまちを臨む

あります。風景に影響を及ぼすような家の外観は、大量生産のものを選ぶのでなく、なるべく地元由来する自然素材を使っていくべきではないでしょうか。

橋梁などもデザインの画一化が進んでいます。景観に対するセンスに磨きをかけてこだわりを持って作ってほしいと思います。例えば、最近各地で電柱の地中化が進められていますが、電柱もその風景にマッチしていれば一律に除去する必要はないのかもしれない。

四季が織りなす美しい自然と文化を誇る朝来は、私たち日本人のかけがえのない財産です。『朝来スケッチ』などの映像によって、一人でも多くの朝来ファンが増えることを願っています。

そして、次の世代の方々には、感性の豊かな小さなうちから故郷を感じてもらい、成長して一旦は外へ出て、また郷土にもどって貢献してもらいたいですね。

# 景観まちづくり インタビュー

朝来市では、自分たちのまちの身近な景観に着目して、大事にする活動を進めている市民の方々がおられます。今回は、竹田のまちなみを考える3人の方に、それぞれの活動から思う、これからの景観のあり方についてお話いただきました。

## ～竹田城下町としてのまちづくり 竹田地域～

【語り手】松本 智翔さん  
松本一級建築事務所  
竹田劇場 喫茶キャッスル

【語り手】阿野真由美さん  
株式会社阿野建設  
専務取締役

【語り手】松本 日登志さん  
まちづくり推進協議会



### 竹田地区まちづくり推進協議会の活動について

松本(目) 私はまちなみ推進協議会で活動していますが、竹田のこの古い町並みをなんとか残したいなという思いで10年ほど前から栄町から新町までの間に一人ずつ、委員を出していただいで活動をしています。

私としては、城山の観光よりも、城山に來た人をなんとか街中へ誘導したいな、來て欲しいな、とがんばっているんです。当初から街中をメインにしないとあかんという思いでして、今の現状は私の思っていたのとはちょっと違うのですが。

松本(目) 活動の成果として、古い建物が残ってきています。しかし新しい建物が



竹田地区から眺める竹田城

に建て変わってしまったものもあり、残念な思いもできています。

今まで古いものが残ってきたという過程もありますし、若い世代に繋ぎ、残して、古民家再生等で活用してもらいたいという思いです。

### 次の世代に残していきたい思い

松本(目) 私は、この街並みに郷愁を感じてるんです。1軒1軒で見てもええんだけでも、続いているところは特にいい。郷愁と木のぬくもりを感じます。それが続いているということが竹田の魅力です。

阿野 私は、設計という仕事で古民家再生などをしていますが、きっかけは、お客様の、残したい、新しい家を建てるより



もこの古い100年とか150年経ったこの家で住みたい」という思い・要望を酌む側でした。家ができた後の家に行かせて頂いてもほっとする。自分の家のように落ち着くというのは、松本会長がおっしゃったようなつかしさがあつたりとか木のぬくもりだったりとか、今の新しい材料にはないものがそこにある。それは素晴らしい財産という文化だと思いい、関わっていく中で、残したいという思いが増えています。

松本(智) なかなか他の方の思いを聞くという機会が無いので、今のお話を聞いて

て、非常に感動しました。私も次の子ども世代にどう残していくかということを考える世代になってきていますので、竹田の人間が代々受け渡ししているものをしていく、ということができたらありがたいなと思っています。

### 竹田地区まちづくり推進協議会の描く竹田

松本(巨) 竹田の古い町並みをなんとか残したいなという思いで10年ほど前から各町から一人ずつ委員になっていただき、まちなみ推進協議会の方で活動していますが、古い街並みを残したいな、城山にきた人をなんとか町中へ来て欲しいな、まちなかをメインにしたいなとがんばっているところなんです。

その甲斐もあつて、なくなってしまうものもありますが、今まで古い街並みが残ってきましたし、今後は古民家再生などで、若い世代に残して活用してもらいたいと思っています。

### 竹田劇場への思い

松本(智) 私は、竹田劇場・喫茶キャッスルというお店をさせてもらっています。竹田のこの町で育ち、30年・40年の中でどんだん町が変わっていく様子を見してきました。子どもの頃、竹田の家具産業は盛んで、花嫁行列のトラックがたくさん出ていました。



竹田劇場外観

家具工場の下請けされている家は三十三軒あつて、家具を加工するウィーンという音や接着剤の匂いは臭いし、子どもの頃にはいい記憶ではなかったのですが、学校を卒業して、竹田へ戻ってくると、それが全くない町になっており、工場が全部止まっている町がすごく悲しかった。城下町の風情を守りたいという思いが芽生えてきて、自分がマネジメントできて初めて人に提案できるのではと思って、竹田の一番端っこの建物で商売を始めさせてもらっただけです。

竹田劇場は1階が喫茶店でイベントをするときに劇場になります。映画上映、劇

団のコラボ企画、ライブ、会議も多々あります。2階は中央廊下型住宅で真ん中に廊下があるので各部屋のプライベートを確保できるので、チャレンジショップ的に低家賃で若い人に貸し出しして、ここで自信を付けてもらったら、どんどん空家の方でやってもらいたいという働きかけをしています。

### 竹田城と生活の場としての竹田のまちなみ

松本(智) ここ数年、竹田城がブームとなつていますが、竹田城の歴史と言つても、戦国時代が終わればすぐにここは城下町というよりは町人の町になっているので、むしろ、そのお城があつたということよりも、町の人がどういふ産業で町を支えてきたか、やはり商売をされていたようなので、そちらの掘り起こしをした方が自然かなと感じています。

阿野 城跡の背景があつて、住宅があり、水路があり、街並みが形成されているという組合せの景色が本当に美しいので、人が集まる仕組みが住民の方に邪魔にならない、そこが重要なんじゃないかな。

その中で、人もお金も物もうまく回るような仕組みが上手にできて、保存ができて、空家が店舗なりで埋まる、ひとつの竹田というところの塊として、うまく循環すればいいなと思いますし、非常に楽しみです。

松本(目) 竹田城に来る人がまちなかに降りてくる資源となるものはあると思うので、それを魅力的にして、歩いて欲しいと思います。そのためにも、挨拶をするといったことからなのでしょうが、本当のおもてなしの意味というところが、竹田の人はまだできていないと思います。

松本(智) 徐々にまちの人が声を掛けてくれるようにはなっていますね。多少意識の改革ができてきているのかなと最近感じています。

まちなみを残していくために…

松本(目) まちなみ推進協議会は、今後おもてなしの方法を学べるようなシンポジウムがしたいと思っています。それには資金面の援助も必要なのかも知れませんが、地域としての体制づくりをしていかないといけないと思っています。

松本(智) 朝来市では、解体の補助金制度がありますが、その補助金があるために解体へと気持ちが行ってしまうというところもある。解体ラッシュが始まると、幅の2間半くらいしかない細い建物が残り、もやしのようなまちなみになってしまふ。

竹田でもガイドラインで色が決まっています。本当は出石まちなみ設計士会の様な、設計士や左官屋などで、竹田

らしい色について話し合えるといいなと思います。

そのためには修景助成の中で、できれば設計の補助の部分や勉強会などの調査研究のようなものがあれば、もっと活動ができるかと思っています。

まちなみを眺めながら、これからの竹田を語る3名



column

歴史・自然・暮らし・人を繋ぐ

旧木村酒造場EN(えん)

〜生まれかわった40年の風情ある酒造場〜

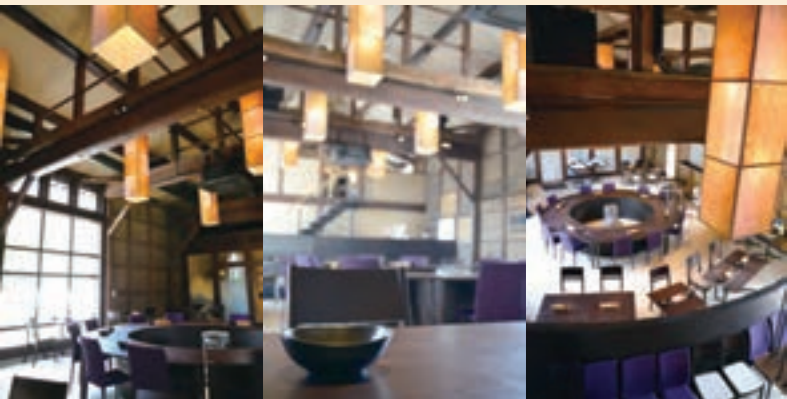
今回の座談会会場となった、旧木村酒造場ENは、竹田城跡の城下町にあった旧木村酒造(朝来市所有)をリノベートして、2013年秋に誕生しました。城下町でもひととき寛大な敷地をフルに活用した、ホテル、レストラン、カフェ、そして、人と人の縁をとりもつ複合商業施設に生まれ変わりました。

10年以上もの時を経て平成25年(2013年)11月10日、生まれ変わった旧木村酒造場は、建物の歴史性を尊重して可能な限りそのままにリノベート。竹田城跡を訪れた観光客が昔ながらの生活に触れられる宿泊棟、地産地消のフレンチレストラン、コミュニティの場としてのカフェなどを設け、人と人の縁を結ぶ場所になってほしい。そんな願いを込めて「EN」と名付けられたそうです。

旧木村酒造場ENは竹田城跡のふもとにあります。その役目は観光スポットだけではなく、例えば、家具や彫刻、陶芸などのマイスターのワークショップに参加したり、無農薬・有機農法に挑み続けてい

る農家の方々と一緒に味噌や醤油を作ったり。そういった体験を通して、次の休みに、また行こうか」と思っていただけに、そんなもうひとつの故郷であることを目指しておられます。

「写真」ENのレストランスペース



# 築250年の古民家改修

## 生野町黒川 青木邸

筆 桂野 崇司さん  
 (朝来市景観審議会委員)  
 (株式会社桂野工務店)



大阪にお住まいの青木様の御自宅を改修させて頂いたのは、平成24年秋〜25年夏工事の開始から完了まで、「朝来市にこんなところがあるのか」と思っほど、自然の移り変わりの早さ、厳しさを感じ、便利になつた現代ですら、多少の不便を感じるこの地において、昔の人はどんな生活をされていたのか興味湧いてくる現場でした。築250年、以前は炭焼き、蚕の飼育等されていた、茅葺の伝統的な日本の建物。奥様の実家であつたこちらの建物。数年間使用されていませんでしたが、退職を機に田舎の生活を実現されるに当たり、「今ある雰囲気を出るだけ変えず」、快適に住める建物への改修」という当初持っていたイメージを、出来るだけ実現でき

るよつに改修工事を行わせて頂きました。工事が進捗して行くにつれて分かってきた、たくさん雪がふる地域特有のしつかりした骨組み、朝来市の山で伐採された栗松、桧等の建築材料。数百年前の大工さんがひとつずつ加工した、カンナの削り跡、地元の人が協力して設置されたであろう、茅葺きの屋根等の事は新たな発見でもありました。

ある程度理解がないと住みにくい建物。しかし、地域のモノ、人が協力して完成した「Made in 朝来」の建物。

今回の事業を通じて、本来の建物造りのあり方を再発見させて頂けたことに感謝します。



### 後日談

現在ご夫婦は毎日こちらで生活されているわけではありませんが、週末お孫さんと滞在されて、都会では体験することが出来ない自然との触れ合いを朝来の川や、山で満喫されておられます。

今回、朝来市景観審議会委員の桂野崇司さんに、古民家改修の取り組み事例を紹介していただきました。



# あさご・景観まちづくり 掲示板

## 全国こども絵画選抜展 ふるさと景観賞を選定!

魅力ある風景を子供たちの目を通して見つめ直そうと、第9回全国こども絵画展2013の応募作品の中から、ふるさと景観賞として7点を選定しました。



景観優秀賞:小原一成さんの作品

福島 萌香さん	梁瀬小学校 6年	『夏休みに入った学校』
永田 一真さん	生野小学校 5年	『市川と姫宮神社へ行く橋』
中尾 有瑠夢さん	大蔵小学校 5年	『初夏の草花』
谷口 愛香さん	生野中学校 1年	『生野銀山湖風景』
正垣 卯美さん	朝来中学校 2年	『夏の竹田城』
木島 慧子さん	生野中学校 2年	『生野マインホールの時計台』
小原 一成さん	生野中学校 3年	『市川と生野鉱山の旧トロッコ道』

## 景観をまちづくりに活かし、地域の活性化につなげるために

朝来市には豊かな自然や歴史・文化、人々の暮らしに育まれた魅力的な景観が多く存在します。これらの景観を保全し、未来に継承するとともに、まちづくりに活かし、地域の活性化につなげるため、「朝来市景観計画」を策定し、「朝来市景観条例」を制定しました。また、同時に国道312号沿道の良好な景観形成のため、「朝来市国道312号沿道地区における屋外広告物の表示方法の基準に関する要綱」を制定し、施行しました。



## 県内初の国選定! 生野鉱山及び鉱山町の文化的景観

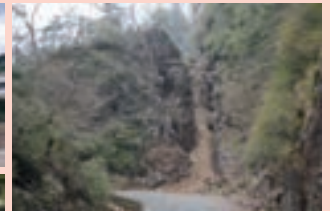
このほど、「生野鉱山及び鉱山町の文化的景観」が国重要文化的景観として選定されました。兵庫県から重要文化的景観が選定されるのは初めてで、現役の鉱工業都市としても全国で初めて選定されました。朝来市では、選定された魅力資源を活かした地域活性化やまちづくりに向けて、積極的な情報発信や活動支援などに取り組んでいきます。



ペーハ小屋・和田山町久世田にて

### 街かどスナップ vol.3

ペーハ小屋とはタバコの葉(米葉)の乾燥小屋で、屋根から飛び出た換気用的小屋根が特徴です。木、土、竹、瓦、石など、自然の素材で作られたペーハ小屋は、今も倉庫や車庫などとして使われています。



(左上)日混こう所・現総合事務所  
(左下)鉱山町の町並みと生野倶楽部  
(右上)西日本最大の露天掘跡・慶寿ひ

## 編集後記

本誌でも制作の様子を紹介していた、映像作家藤原次郎さんの「朝来スケッチ」が完成しました。今回の特集①では、改めて藤原さんに制作を振り返っていただくとともに、朝来市の景観まちづくりの未来について語っていただきました。また、特集②では竹田のまちづくりに取り組むお二人にお話を伺いました。お二人に共通するのは、歴史ある竹田の町を未来に引き継いでいきたいという熱い想いでした。景観まちづくりは過去・現在・未来をつなぐ行為でもあります。取材をお引き受けただいた皆さんの言葉の力を借りて、そのことが伝われば幸いです。(A)



### 【表紙の写真】

- ① 春・玉林寺のしだれ桜(与布土) ② 夏・茶摘み(さのう高原)
- ③ 秋・稲刈り(石田) ④ 冬・トロッコ道と市川(口銀谷)